

1 株式会社タムロン

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 企業活動全体におけるCO2排出量を把握し、環境負荷低減活動を推進するため。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 外部の環境関連調査への回答、CSR報告書へ算定結果を掲載し、ステークホルダーに取り組みを情報公開していく。● 環境負荷の高いカテゴリーを特定し、負荷低減活動の参考とする。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 環境負荷が大きいカテゴリーを特定し、効果的なCO2排出量削減に繋げることが出来る。● ステークホルダーに取り組みがアピール出来る。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 関係部門(事業部、総務、情報システム)から1次データを入手し、CSR部門で算定した。

2

株式会社タムロン

各社の考え方

□ サプライチェーン
排出量の削減に
向けて

- カテゴリ1(購入した製品及びサービス)及びカテゴリ4(輸送・配送)の占有率が大きかった。今後、削減の可能性を検討していく。

□ サプライチェーン
排出量算定の課
題

- 各カテゴリで使用するデータの精度をあげ、算定結果向上に繋げる。
- 算定業務の標準化

□ その他(任意)

—

3 株式会社タムロン

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 調達金額(使用部材、消耗品、サービス等)	● SC-DB(※1)
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● SC-DB(※1)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー種類別の購入量 (ガソリン、重油、電力、灯油 等)	● CFD-DB(※2)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 輸送重量、輸送距離 (シナリオを設定し、トンキロ法で算定)	● SC-DB(※1)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別重量	● SC-DB(※1)
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額(出張旅費)	● SC-DB(※1)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額(通勤)	● SC-DB(※1)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 営業拠点活動(賃借している建築物の床面積)	● SC-DB(※1)
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 該当活動なし	● —
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当活動なし	● —
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 製品の消費電力、販売数量	● SC-DB(※1)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品の部材別重量、販売数量	● SC-DB(※1)
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当活動なし	● —
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当活動なし	● —
カテゴリ15「投資」	● 該当活動なし	● —
「その他」	● 該当活動なし(本カテゴリは任意算定)	● —

※1「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer.2.3」

※2「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースver.1.01(国内データ)」

4

株式会社タムロン

算定結果

カテゴリ別CO2排出の割合(スコープ3)

	内容	割合(%)
カテゴリ1	購入・取得したすべての製品及びサービスの採取、製造、輸送	56.9%
カテゴリ2	購入または取得した資本財の製造及び輸送から発生する排出量	25.8%
カテゴリ3	購入した燃料の上流側(資源採取、生産及び輸送)の排出及び電気、熱、の製造過程における上流側の排出	1.2%
カテゴリ4	購入した製品・サービスのサプライヤーから自社への物流(輸送、荷役、保管)に伴う排出	7.0%
カテゴリ5	事業活動から発生する廃棄物の自社以外での「廃棄」と「処理」	1.8%
カテゴリ6	従業員の出張等、業務における従業員の移動の際に使用する交通機関から排出される排出量	0.2%
カテゴリ7	従業員の工場・事業所への通勤に使用する交通機関から排出される排出量	4.3%
カテゴリ8	賃借している倉庫等の操業に伴う排出量	0.0%
カテゴリ11	販売した製品・サービスの消費者による使用による排出量	0.6%
カテゴリ12	販売した製品本体及び容器包装の使用済み時の廃棄と処理	2.2%